

# 海の星タイムズ

the Uminohoshi Times

No. 14  
September  
2016

発行元：浜松海の星高等学校 学校法人浜松海の星女学院 〒432-8018 浜松市中区観塚3丁目14番1号 TEL.053-454-5376 FAX.053-453-4719

来年4月の「浜松聖星高校」誕生に向けて、いよいよカウントダウンに入った私たちの母校。すでに夏のオープンスクールが開催され、多くの男子中学生を含めて、例年を大きく上回る参加者が集いました。北協理事長は、「この歴史的プロジェクトを全員の力で大成功に導きたい」と意気込んでいます。



## 新生・浜松聖星高校を みんなの力で創造しよう

夏のオープンスクールに”手ごたえ”あり!



在校生たちにとって、衝撃だったことは事実です。しかし、時間が経つにつれて共学化を前向きに受け止め、「自分たちが新しい学校を創り上げていくんだ」という気持ちになってくれているようでうれしく思います。

共学化へ向けた学校のメッセージを素直に受け止めてくれるのは、生徒たちが日頃から伸び伸びと、自ら考える学校生活を過ごしている賜物ではないかと思えます。「学校が考えることだから、私たち生徒には関係ない」と無関心だったり、一時の感情で反発したりするのはなく、「自分たちが誇れる学校にしていくために何が必要か、自分たちはどうすべきか」を真剣に考えてくれています。改めて私は、そんな生徒たちを誇りに思っています。

「国際教養教育」  
「心の教育」をアピール

これまでの「英語の海の星」からさ

校外の方々からも、以前から海の星の生徒たちへの評価は高く、「男子生徒もこの学校で健やかに教育してもらえればうれしい。新たなスタートが待ち遠しい」という声をいただいています。

男子を含む参加者が予想以上に多く、大きな手ごたえを感じることができました。当日は在校生たちが自主的に、教師と一緒に参加者を出迎え、部活見学の際には進んで話しかけてくれたので、参加した中学生たちに先輩の身近な声を聞いてもらえたと思います。

体験授業では、タブレットやパソコンなどを使い、コミュニケーションを図りながら学ぶ、ICT教育を体感してもらいました。男子と女子が隣同士で相談しながら取り組む様子を見て、今後の聖星高校の姿を見たかのように感じました。

制服試着も大人気。聖星の制服を身にまとった男女の中学生たちを写真撮影したのですが、「落ち着いた中にセンスが光る」「フィット感があり心地がいい」と、うれしい感想をもらいました。

在校生の代表は、文武両道の充実した学校生活の中で、自身の存在意義を見出し、成長できた経験をスピーチ。「海の星 60年の素晴らしい伝統を、次なる聖星へとつなげ、新入生たちと一緒に新たな校風を創っていききたい」と、参加者へメッセージを送ってくれました。先輩の声は、きっと中学生たちの心に深く響いてくれたと思います。

夏のオープンスクールに  
予想以上の参加者



8月に続き、3、4回目となる秋のオープンスクールでは、現在工事中のトイレ更衣室などの施設も公開できる予定です。男子生徒を迎える態勢が万全であることを強調できると思っていますので、初回の手ごたえを活かし、より積極的にアピールしたいと考えています。

同時に、カトリックミッションスクールならではの「心の教育」で、世界の多様性や隣人愛を理解し、実践する。それをベースに、言語・コミュニケーション・文化・価値観・考え方をなどを経験から学び、育む力を養うことも紹介しました。



歴史的プロジェクトを  
みんなの力で推進!

新生・聖星高校は、男子生徒が加わると同時に、女子生徒のさらなる増加も期待しています。今や、浜松市内の高校はほとんどが共学校。その中で、女子教育にも秀でた学校として、当校は絶対の強みがあります。

男子も女子も、国際的な素養を育てる学校としての新たなスタート。これは、先生、生徒、そして保護者の皆さまにとっても、歴史的プロジェクトです。ぜひ皆さまには、「ターニングポイントの当事者だ」という感覚を持って、ともに前進していただきたいと思えます。今後も引き続き、率直なご意見をお寄せください。そして、海の星の身内として自らが実感した「海の星の良さ」を、周りの方々へお伝えいただけたら幸いです。

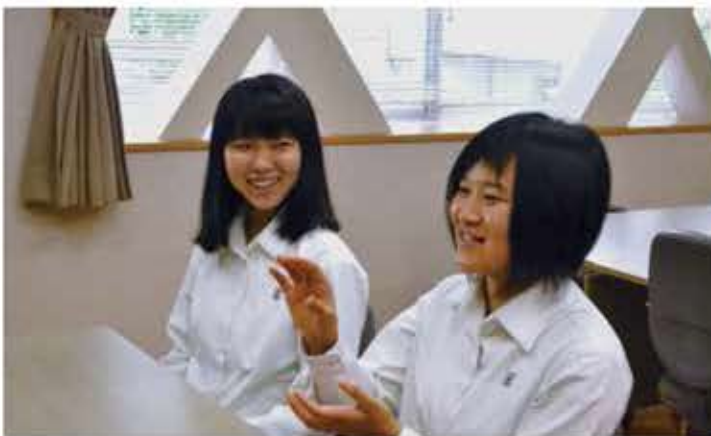
聖星高校への期待は日々高まってきています。それに応えていくことが、当校の存在意義を確立することです。すし、同時に、この浜松地域への貢献につながっていくと思っています。

# 「新しい風を吹かせたい！」

## —生徒会役員に聞く・共学校への期待—

◆◆生徒会メンバー◆◆

木村美友(2年) 中川 彩(2年)  
濱崎雛子(2年) 山下紗輝(2年)



識が変わっていったように思います。木村/男子生徒の意見が入ることで、考え方に幅が広がると思うので、これまでの「海の星(女子校)らしさ」を活かしながら、楽しいことにチャレンジできたらしさです。

### 大切にしたい海の星(女子校)らしさとは?

山下/女の子が自然体でいられること。みんな家族のように気さくで、包み込んでくれる雰囲気。何でも意見を言い合える環境です。木村/生徒の個性を見て、一人ひとりの能力を引き出してくれるのが海の星。

濱崎/この学校でなかったら、私は生徒会に入っていなかったと思います。ここでは、誰にでも活躍の場を与えてくれます。

中川/日常生活でも、清掃の指導が厳しいお陰で、常に身の回りからきちんと整える習慣が身に付きました。学校

### 共学化への現在の気持ち

濱崎/最初に聞いたときは、「まさか海の星が」とびっくりして、とくに名前が変わってしまうことが悲しかったです。でも、共学化になると、今までできなかったことへの可能性も広がると思いますし、今では期待の方が大きくなりました。

中川/戸惑っていた子も少しずつ「前向きに受け入れていこう」という考えになって。

山下/さらに「新しい学校にしていこうか」と、自分たちは何をしたいか」と、生徒同士の会話の中で、徐々に意



外で行うボランティア活動も、この学校ならではの伝統です。山下/聖星高校になっても、こうしたよさを活かした学校になるといいなと思っています。

### 共学化して変化を期待するのは?

中川/体力的に、体育祭でのテント設営などの力仕事は男子にお願いしたい。応援合戦や文化祭などの行事にも、男子が加わると、迫力が増していくのではないのでしょうか。木村/部活動もますます活発化していくと思うので楽しみ。

山下/吹奏楽部の子たちも「音の出方が変わって、今まで以上に表現の幅が広がろう」と話しています。

濱崎/合唱も、混声になれば男子の低いパートが土台になるので、いろんな曲にチャレンジできそう。

山下/世界情勢を英語ニュースなどで見聞して話し合うグローバルイシュー研究部も、男子の意見が入ってくると、また違った見方が出てきて面白くなると思います。

### 生徒会活動や自分自身に変化は?

中川/今までは女子目線だけで考え、実行してきましたが、これからは「男子の立場にもなって、考えなくては。山下/新しいことへ挑戦するやりがいを感じます。

濱崎/この学校では生徒の主体性を尊重してくれるので、共学化されたらまた違った活動も多くなるはず。それを引っ張っていく生徒会に自分が関わることができてうれしいです。木村/プランを考えて、企画書を作成し、一つひとつを形にしていこう。

した生徒会活動は私にとって初めてのことばかり。共学化後も、ますます自分自身を成長させることができたいと思います。

### これからの意気込みを聞かせて

中川/男子生徒が加わる、今までと違った生徒会。自分たちだけではなく、下級生に引き継いでもらえるような新しい基盤を作っていきたいです。山下/学校の歴史的な時期に、自分たちが関われることは大きなチャンス。「自分たちで変えていく」というワクワク感でいっぱいです。

濱崎/私たちが卒業するとき、後輩から「先輩に、こうしてもらったことがうれしかった」と言ってもらえるように頑張ります。

木村/校外の方たちからも「共学校になって、海の星がさらによくなったね」と言ってもらえたら幸せ。

山下/そうなるように、「革命を起こす!」「新しい風を吹かせたい」。そんな意気込みで新しい生徒会を目指していきます。

四人/未来の新生へ!「聖星高校の生徒になって、ぜひ一緒に新しい学校を盛り上げ、歴史の1ページを作っていきます。待っています」



### ★理事長コラム

#### 他人の意見を笑わない

浜松海の星女学院 理事長 北脇保之



残念なこと、日本の若者の自己肯定感、国際比較でみると際立って低い。内閣府の調査(平成26年版)でも、若者白書」によれば、「自分自身に満足しているか」との問いに肯定的に答えたのは、アメリカ、韓国など比較対象の国が70.8%台であったのに対し、日本は45.8%にとどまっている。

この原因を一言でいうことはできないが、何事にも正しい答えがあるとする日本の教育風土が一つの要因となっているのは間違いない。誰でも、自分自身あるいは級友が、教室で「間違った答え」、「変な答え」を言ったら皆に笑われた経験を持っているだろう。このような経験をした結果、人前で意見を言うことに臆病になってしまった人も少なくないはずである。

今新しい教育の手法として「アクティブ・ラーニング」ということがしきりに言われている。これは、従来の教育観を転換し、正解のない問題にこそ、課題探求やグループディスカッションにより取り組んでいこうという動きである。来年度から共学化し、「浜松聖星高校」として新しい学校づくりを進めようとしている本校においても、その意義を認め、積極的に導入していく方針である。その際、「他人の意見を笑わない」ことが徹底していなければ生徒たちの積極的な参加は引き出せず、空回りするだけに終わってしまうだろう。聖星高校は、誰もがのびのびと自分の意見を言える、どこよりも間違えな学校にしていきたい。

### ★学校長コラム

#### しなやかに考える

浜松海の星高等学校 学校長 重信明利



「正義」とか「倫理」とかいふと、普通ならそこに何らかの「絶対性」を求めたくなります。確かに根源的なところでは正義も倫理も絶対的なものとは思いますが、最初からこの絶対性に拘ると考え方が保守的になったり、形式主義に陥ったりします。状況に応じて考え方や態度を変えること、妥協することもある意味「正解」といえるのではないのでしょうか。

「マタイによる福音書」17章24、27節にはイエス一行がカファルナウムで徴税人に神殿税を求められたとき、イエスは、彼らに「納めなさい」と言ってしまった彼の弟子ペトロに対し、自分たちが神に税金を払うことの矛盾を説きながら、このように言います。「湖に行って釣りをしてなさい。最初に釣れた魚を取って口を開けると、銀貨が一枚見つかるはずだ。それを取って、わたしとあなたに分として納めなさい。」

イエスに限らず、人々は神の「子」です。すなわち「父」である神に税金を納めるのはすじが通りません。ただ、それをイエスが最後まで主張したのであれば「納めなさい」と言ってしまったペトロは危うい立場に立たされ、徴税官の面目も立たなくなりました。そこでイエスは魚の口から出てくる銀貨、いわば誰のものでもない(捨つてきたような)お金を納めて来いとペトロに命ずるのです。これを現実化してしまえばイエスの超人的な能力もさることながら、大人としての態度でこの状況を切り抜けるイエスの機転と柔軟な考え方にはただ驚かされます。

「柔軟な考え方」「しなやかさ」は「ぶれない信条」と両立するものではないのでしょうか。

# 創立60周年記念式典

6月9日、カトリック横浜司教区教区長のラファエル梅村昌弘司教様をお迎えし、本校体育館で創立60周年記念式典を行いました。司教様は、「神の愛を伝えることがカトリック学校の使命。子どもたちが、自分が愛されていると実感できるように導いてほしい」と述べました。

員で本校の60周年を祝福しました。吹奏楽部の演奏や生徒メッセージでは、同窓生に感謝すると同時に未来への強い志を来校してくださった方々にお伝えすることができました。



## 英語スピーチコンテスト *Speech Contest*

6月22日、本校で英語スピーチコンテスト校内大会が行われました。一般の部(英語圏の国の経験が10ヵ月以内の生徒)では6名、帰国子女の部では3名の生徒がスピーチをしました。一般の部の1,2位と帰国子女の部の1位が9月に行われる西部大会に出場します。



- 〔一般の部〕
- 1位 尹 藝燕 (1年) Does the Internet make us closer?
  - 2位 池田佳菜子 (3年) Kids and Grandparents
  - 3位 柴田 空 (3年) Eleven year old mother
- 〔帰国子女の部〕
- 1位 袴田綾乃 (3年) Poppy or Pocky?

## マリア祭



5月31日、浜松海の星高校体育館にて「マリア祭」が開かれました。聖母マリアをたたえ、感謝を表すこの式典はカトリック校としての行事の1つです。生徒に協力を依頼して各自が持参した花をクラスでオアシスに生けて体育館の壇上に供えます。生徒1人ひとりの思いが供えられた花に込められ、神に伝わるようにマリア様にお祈りをしました。シスター・高橋は、「皆さんが持参した花1本1本に祈りが込められています。マリア様は神ではなく、神に皆さんの思い、願いごと、助けを求めるところを伝えていただく方でありませう。今日、マリア様の周りに供えられた花は単なる花ではなく、みなさん1人ひとりの思いが込められた花に変わっているのです。この場でマリア様に皆様の思いを伝えてください」と述べ、献花、ろうそくの奉納、聖歌、マリア様についてのお話とお祈りが行われました。カトリック教会では、キリストの母マリアは愛と奉仕に生きる女性の模範とされ、5月を「聖母マリアの月」と定めています。浜松海の星高校ではマリア祭は16年以上続いている恒例行事となっています。

6月10日、11日、本校にてベリタスプラザが開催されました。11日の一般公開日には晴天に恵まれ、1480名を超えるお客様に来場していただきました。今年度は、「花明り」をテーマに行われました。「花明り」とは、「伝統を引き継いで1人ひとりが、今光っている」ということで、1人ひとりの光は小さいが、周囲からの影響を受け、大きな光となり、家庭や地域、社会を照らし続ける存在になっけていきたいという思いが込められています。生徒をはじめ、保護者の皆様や同窓生の方々の「花明り」が大きな光となり、来年度新しく生まれ変わる本校の希望の光となっていくことをお祈りします。女子校としては今年で最後の文化祭でしたが、全員で協力しながら盛大に終えることができました。多くの方々にご来場いただき誠にありがとうございました。

## ベリタスプラザ 文化祭 2016年6月10日(金) 11日(土)開催



# 同窓会 バザーのお礼

平成28年6月11日(土)、創立60周年記念にあわせてバザーが開催されました。同窓生やご家族、海の星に心を寄せてくださる方々から、多数のバザー用品を提供していただき感謝申し上げます。おかげさまで多くのお客様にご来場いただき、盛況のうちに終了することができました。

売上より3万円を海の星高校ボランティア部の末広会に寄付し、募金箱に寄せられた浄財とあわせて132,525円を熊本地震災義援金とし、中日新聞社へお届けしました。

ご協力ありがとうございました。  
バザー部



● 浜松市中区規模の浜松海の星高校同窓会が13万2525円。11日の文化祭で行った「創立60周年記念バザー」の収益金全額と募金箱に寄せられた善意を須山枝美子会長、一瀬弘子副会長、伊藤千尋子副会長、松本容生子バザー部部長が本社へ。

熊本地震災義援金  
中日新聞社義援金募集を促し



## 部活動情報

### 吹奏楽部

- 第71回東海吹奏楽コンクール金賞
- 第64回全日本吹奏楽コンクール出場決定

### 陸上競技部

- 第63回東海高等学校総合体育大会出場  
4×100mR/雪野紗代 菊地真優  
大石 愛 菊地美優
- 第59回東海陸上競技選手権大会出場  
100m/大石 愛 800m/平井美羽  
4×100mR/雪野紗代 菊地真優  
大石 愛 菊地美優

### 剣道部

- 第63回東海高等学校総合体育大会出場  
団体戦/大野夏綺 大石ののか  
永谷梨彩子 久保朱里  
鈴木璃瑚 高塚真亜弥  
小林愛美 松尾萌吹  
個人戦/高塚真亜弥

### 弓道部

- 第63回東海高等学校総合体育大会出場  
個人戦/田之岡杏菜
- 第71回国民体育大会  
第37回東海ブロック大会出場  
田之岡杏菜

## Welcome home

～同窓会より～

平成28年6月11日ベリタスプラザ当日、同窓会は創立60周年記念企画としてホームカミングデイを開催しました。

企画部：広報部・バザー部・ボランティア部の活動の歩みや会報誌ステラマリスを第1回版から最新版まで紹介し、卒業アルバムを50冊ほど展示しました。又、会場内では創立母体ベルナルド会のシスター達の最近の様子をビデオメッセージで流しました。在校生からは同窓会へ心温まるメッセージが届き廊下の壁いっぱいには張られていました。キリスト教の愛と奉仕の心を学

び実践してきた先輩たちの歴史を伝え、在校生の活躍を紹介し、60年温かい心が受け継がれています。

また、退職された7人の先生がご出席くださり、同窓生に囲まれ昔話に花を咲かせ賑やかで楽しい時間を過ごしました。喫茶コーナーでは今年3月に卒業した58回生が、接待係りとして甲斐甲斐しく働いている姿は会場をあたたく和やかにしていました。

会場内には、来春から浜松聖星高校となる案内コーナーがあり、中学生が立ち寄って学校の説明を受け、新しくなる制服に目を向けていました。

たくさん同窓生が集い、旧いアルバムを眺めたり、懐かしい写真を見て談笑したり、お世話になった先生方とのお話しに夢中になったりと、それぞれが学生時代に戻ることができた一日でした。

ご来場くださった皆様ありがとうございました。

12月			11月			10月			9月				
24日 [土]	17日 [土]	14日 [水]	10日 [土]	26日 [土]	18日 [金]	12日 [土]	5日 [土]	28日 [金]	7日 [金]	5日 [水]	4日 [火]	3日 [月]	28日 [水]
海の星のクリスマス	入試説明会	入試説明会	入試説明会	秋のオープンスクール	物故者追悼式	秋のオープンスクール	合唱コンクール	2年生保護者対象 大学進学説明会	2年生チャペルアワー	1年生チャペルアワー 保育ふれあい体験 (1年特選)	3年生チャペルアワー	修学旅行(10/7)	体育祭

★キャンパスカレンダー

# 入試説明会

12月10日(土)・17日(土)

場所 浜松海の星高等学校 対象 中学生とその保護者様

# OPEN SCHOOL in AUTUMN 秋のオープンスクール

11月12日(土)・26日(土)

場所 浜松海の星高等学校 対象 中学生とその保護者様